（第三種郵便物認可）　第25675号

読売ゴルフ通信

林、堂々の優勝

中村の不調で終始リード

読売主催の第一回プロ・ゴルフ選手権は予想外の成果を収めて終った、観衆も最終日の白熱した鎬り合いが興を呼んでかつてヘーゲン、サラゼン、マングラムら来の大選手が来日した当時のような盛況を呈した

コースは整備委員の努力によって改善を加えられたが、グリーンだけは芝の工合で非常に難しく、優勝スコアは8アンダー二九六と大きくパーをオーバーした、一ラウンドのベスト・スコアも林の一アンダー七二がよかったが、グリーンがよかったら、六〇台のスコアは当然出たことと思う

國産球の慣性を示す

使用ボールのブリヂストン球はその飛距離の点について外國ボールに遜色なく、優勝した林がシックスティ・ファイブ（65）球とほとんど変らない、と語っているが、國産ボール慣用の目的を果したことも本大会の収穫の一つである

林、終始リード

優勝した林は第一ラウンドから終始トップに立ち、堂々たる優勝候補の中村と孫に第一日の第一組に組合わされて、謂み合いをしている間に、ラストにスタートした林は第一ラウンドのベスト・スコア、パー七二を出してトップに出た

林は第二ラウンドで孫に追いつかれたが第三ラウンドで孫を七ストローク抜いて断然に優勝を決定したものとみられた、彼の最もおそれた中村は不調つづきで優勝圏外に落ち彼を追うものは石井朝、古賀の二人だけとあっては

林選手のバッティング

林の気は非常に楽になった

第四ラウンドの十六番を終って一時石井に一ストローク遅に追られたが、十七番左バンカーから見事ワン・パットで石井にとどめを刺した水際立ったプレーは本大会の圧巻であった

石井朝、黒馬の本領

石井朝は非常にいいプレーヤーで、時々物凄いアンダー・パーを出すが、第二ラウンドの79が異変で、パー或いはこれに近いステディなプレーを重ねて第二位を獲得した、ベスト・テンには数えられていたが、よもや優勝を争うところまでは行くまいと思われていただけにダークホース振りを発揮したものである

さすが孫の粘り

孫は第二ラウンド林と首位をタイとしたまではまだ優勝の望みがあった、しかし第三ラウンドの6オーバーが大きくひびいて優勝圏外に去った、しかしこれに屈らず第四ラウンドをパー・プレーをし最終十八番グリーンではロング・パットを入れば、石井と第二位をタイとする際どいところまで追い込んだ粘り腰は確かに名を恥かしめなかった

四位以下は全く混戦となった、石井治はよく体力を持ちつづけて第四位となり、ホームプロの島田も最終ラウンドに七四という自己のベスト・スコアを出して石井にタイとした、古賀は第三ラウンドでトップの林につぃで一時第二位となったが、第四ラウンドは疲れて惜しくも第六位となった

中村は第一日のアウト42という彼としては予想もしない悪スコアを出してつまずき、ついに立直りをみせなかった、終盤中六九を出した中村としてはこの不調はあきらめきれなかったろう、石井茂の第六位はオープン以来相当期待をかけられていただけにむしろ不出来と思われるが、グリーン・コンディションが大きく影響した本試合としてはまた止むを得ないものがあったろう

とまれ百万円という最大の賞金はゴルフ界に大きな成果をもたらした、石井朝と孫はまさに一パット十万円のきわどいプレーをした、関西の選手は意外に振わい三人までがベスト・テンに食い込んだ、これらは新人石井の躍進とともに特記すべきである（小笠原勇八）

Golferweb　林由郎特集記事（東京ゴルフ倶楽部蔵）　無断使用を禁止します